

IV 高等部の教育課程

1 高等部の教育目標

- (1) 体力の向上を図るとともに、健康で明るい心を育てる。(健康で明るい生徒)
- (2) 基本的生活習慣の形成を図る。(身の回りのことができる生徒)
- (3) 道徳的心情を豊かにし、思いやりの心や善悪の判断力を育てる。(心豊かな生徒)
- (4) 自主的な行動力と最後まで頑張り抜く力を育てる。(最後までやりぬく生徒)
- (5) 自立し社会参加を目指し、就労生活に必要な態度と能力を育てる。(自ら進路決定できる生徒)

2 教育課程の編成方針

- (1) 学習指導要領に基づき生徒の発達段階や生活年齢を考慮し教育課程を編成する。
- (2) 学習指導要領における各教科・領域別の指導を主軸に教育課程を編成し、生活力を高め、自立し社会参加・貢献できる生徒の育成を目指すとともに、総合的な探求の時間の充実に努める。
- (3) 社会に旅立つ最終学部であることを考慮し、個々の生徒が進路について自覚し将来社会の一員として自立できる知識と技能、態度が十分習得できるよう「生きる力」を育成する教育課程を編成する。
- (4) コーポレーションタイムを活用して小学部・中学部との連携を密にし、一貫した系統性のある教育課程を編成する。
- (5) 自立活動は教育活動全体を通して指導するとともに、生徒の実態に応じて時間を設定して指導を行い、障害による学習上又は生活上の困難を改善し心身の調和的発達を促進するよう教育課程を編成する。
- (6) 体力の向上及び健康の保持増進に努め、健康で安全な生活を送るための基礎を養う教育課程を編成する。
 - ・正しい性の知識を身につけ、高校生として望ましい行動をとることができるよう、学校生活全般を通して適切な指導を行うよう教育課程を編成する。
- (7) 調和のとれた人間性豊かな生徒を育てるために、変化にも対応できる学校生活を送り、生徒個々の特性と能力を十分に引き出すことができるように努める。
- (8) 職業生活に必要な能力を高め、基礎的な経済生活への参加を促すために、職業教育の充実に努めるとともに、生徒の発達段階に合わせてキャリアパスポートを活用したキャリア教育を推進する。

3 各教科等の指導の重点

(1) 各教科

①国語

ア 知識及び技能

- ・日常生活に必要な文字や文章の読み書き、要点を理解する力の定着を図る。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・日常生活や社会生活において、相手に注目して話を聞き、自分の思いや考えを相手に伝える力を高める。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・言葉を活用して思いや考えを伝えようとする態度を養う。

②社会

ア 知識及び技能

- ・地域や我が国の地理・歴史・文化や外国の様子、現代社会の仕組み等について理解を深め、情報を適切に調べる技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・社会的事象を自分の生活と結びつけて考える力や社会への関わり方を選択したり判断したりする力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・主体的に社会と関わろうとする態度や学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

③数学

ア 知識及び技能

- ・式や計算の有用性を理解し、日常生活に活かす力を養う。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・長さ、重さ、量などの測定方法を理解し、活用できる力を養う。
- ・定規を利用した作図方法を理解し、活用できる力を養う。

- ウ 学びに向かう力・人間性等
- ・金銭や時計、暦などの正しい使い方を知り、日常生活で活用できる力を養う。

④理科

ア 知識及び技能

- ・人間の体や身近な生物などの仕組みや働きについて知識を深め、基本的な技能を身に付ける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・自然の事物・現象について観察し、理解を深めるとともに、自然と生活の関係について気付く力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・自然を愛する気持ちを育て、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を育てる。

⑤音楽

ア 知識及び技能

- ・音楽のつくり気付くとともに感じたことを音楽表現にするための技能を身に付ける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・音楽活動を通して、音や音楽をよく聴き、表現する楽しさを知る。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・いろいろな音楽を表現及び鑑賞することにより、日常生活の中で音楽を愛好する態度を養う。

⑥美術

ア 知識及び技能

- ・造形的な視点を理解しながら表現方法を工夫する技能を身に付けるようにする。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・造形的な美しさについて考え、経験したことや材料を基に発想するとともに、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い豊かな情操を培う。

⑦保健体育

ア 知識及び技能

- ・体づくり運動、いろいろなスポーツ、ダンスなどの運動を通して体力や技能を高める。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・集団でのきまりやいろいろなスポーツのルールなどを守り友だちと協力して進んで安全に運動する。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・心身の発育発達に応じた適切な行動や生活に必要な健康、安全に関する事柄の理解を深める。

⑧外国語

ア 知識及び技能

- ・日常生活の中で見聞きする語や句の意味を知り、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・身近で簡単な事柄について簡単な外国語を使ってやり取りできる基礎的な力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

⑨情報

ア 知識及び技能

- ・コンピュータやiPad等のICT機器の操作の習得を図り、活用することができる。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・情報社会でのルールやマナーについて理解し、遵守する態度を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・通信ネットワークを積極的に利用して必要な情報を収集して課題を解決したり、情報社会に参加する態度を養う。

⑩職業

ア 知識及び技能

- ・将来の職業生活に係わる基礎的な知識や技能を身に付ける。
- イ 思考力・判断力・表現力等
- ・生産活動や販売活動（買い物学習）を通して自分の課題を設定して解決する力を養う。
- ウ 学びに向かう力・人間性等
- ・活動を通して、達成感や成就感を味わい、働く意欲を養う。

①家庭

ア 知識及び技能

- ・健康管理とバランスのとれた食事について学習し、簡単な調理ができる。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・身近な消費者生活や消費者の基本的な権利と責任について学習し、判断する力を身に付ける。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・家族の一員として、自分の果たす役割について考え、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。

(2) 道徳科

- ・礼儀正しく、豊かな心を持ち、社会性に富む人間を育てる。
- ・教育活動の全ての中で、自主・自立の精神と心豊かで思いやりのある生徒の育成を図る。

(3) 総合的な探究の時間

ア 知識及び技能

- ・校内実習や現場実習を通して、自己の課題を見つけ、それを解決する知識や技能を身に付ける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・校内実習や現場実習に向けて、目標を設定するために自己の課題を整理・分析したり、課題解決に向けて得られたことをまとめたり表現できる。

ウ 学びに向かう力

- ・自己や他者の課題解決に向けた取組みを将来の進路選択に向けて主体的に活かすことができる。

(4) 特別活動

- ・ホームルーム活動を通して、自己や他者を理解尊重するとともに、役割分担し協力することで諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を養う。
- ・生徒会活動を通して、集団の一員としての自覚と責任感を高めよりよい学校生活づくりに参加し、協力できる自主的、実践的な態度を養う。
- ・学校行事を通して、社会の一員であることの自覚を促し、経験や体験を通して豊かな人間性を育てる。

(5) 自立活動

- ・個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。
- ア 健康の保持・・・健康状態の理解と維持・改善を図る。
- イ 心理的な安定・・・情緒の安定を図り、状況の変化に対応できる柔軟性を培う。
- ウ 人間関係の形成・自他の理解を深め、他者との関係を円滑にし、集団参加への基礎を培う。
- エ 環境の把握・・・感覚を総合的に活用した状況の把握能力の向上を図る。
- オ 身体の動き・・・日常生活に必要な生活動作の改善を図る。
- カ コミュニケーション・・・状況に応じたコミュニケーションができる。

(6) 各教科等を合わせた指導

①生活単元学習

ア 知識及び技能

- ・生活に関わることや、問題解決のための様々な体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・様々な体験的な学習活動を活かして、よりよく生きるために必要な判断力を養う。

ウ 学びに向かう力

- ・将来の社会生活に向けて、目標を持ち、見通しを持って積極的に取り組む態度を養う。

②作業学習

ア 知識及び技能

- ・職業生活に必要な知識・技術・態度を高める。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・安全に気を付け、仲間と協力して最後まで働く意欲を養う。

ウ 学びに向かう力

- ・作業や実習の目的の理解を深め主体的に創意工夫ができるようにする。
- ・異年齢の児童生徒との協働学習の中で、自ら人と関わろうとする力を高め、積極的に社会参加・貢献する態度を養う。（コーポレーションタイム）

（留意点）

- ①学年合同による指導やグループ指導を行う。
 - ②教科別指導は、習熟度別にグループを編成し指導する。
 - ③作業班は、園芸美化、家庭、手工芸、窯業、木工の編成で行う。
 - ④作業学習からの発展学習として、5班より抽出して学校カフェ運営を行う。
学校カフェは各班に所属する生徒を抽出し、実施期間を特設して行う。
 - ⑥Ⅱ課程Aは、週あたり9コマの作業学習（1コマ50分）のうち、週1回2～4校時を中・高合同班編成の作業学習「コーポレーションタイム」としている。Ⅱ課程Bの作業学習は週当たり3コマで、それを「コーポレーションタイム」としている。
- ※コーポレーションタイムとは、各学部が連携し、それぞれの発達段階における社会参加の視点を持って同じ時間・場所・内容の活動に関わる授業である。

4 交流及び共同学習の重点

- (1) 他校の同世代の仲間達との交流を通し、自己理解、他者理解を深める。
- (2) 地域との交流を通して、協調性や社会性を培う。

5 生徒指導の重点

- (1) 家庭や地域、関係機関との連携を密にし、個々の生徒の発達段階や障害の状態に応じて、基本的な生活習慣の形成、社会生活に必要な能力を養う。

6 キャリア教育の重点

- (1) 全ての教育活動を通して、主体的に生きる力を獲得できるようにする。
- (2) 進路学習や施設見学、校内実習・校外実習を通して、自己の能力や適性を把握し、進路を選択できるようにする。
- (3) 小学部・中学部と連携したコーポレーションタイムを通して、将来自立し、社会参加に向けた、実践的・体験的な活動を充実させ、自己有用感を高める。

7 生涯教育への意欲を高める指導の重点

- (1) 全ての教育活動を通して、人生をより豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、身に付けた知識・技能・経験を地域社会での活動に生かそうとする態度を育む。
- (2) 学習活動や部活動を通して、文化やスポーツに親しみ、生きがいのある豊かな生活を営むことができる態度を育む。

8 ICT 機器利活用の重点

- (1) 生徒の「意欲を高めること」「理解を高めること」「思考を深めたり広げたりすること」「表現や技能を高めること」を目的とした利用の他に特に生徒一人一人における合理的配慮や基礎的環境整備を目的とした活用を図っていく。

9 安全教育の重点

- (1) 人間の生命尊厳の認識の上に立って、安全な生活を営むために必要な事柄を実践的に理解し、安全な行動ができるような態度を養う。
- (2) 教育活動全体を通して、防災や交通安全に対する意識を高め、安全に日常生活を送ることができる。